日本口腔顔面痛学会 News Letter No.75

（2024 年 10 月 14 日発行）

日本口腔顔面痛学会理事長　小見山 道
広報委員会担当理事　山崎 英子/委員長　池田 浩子

今回は，8 月 17, 18 日に行われた口腔顔面痛脳学習キャンプ in 信州 2024 について鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座の河端 和音先生に報告していただきます.

口腔顔面痛脳学習キャンプ in 信州 2024 参加報告

鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座　河端 和音

2024 年 8 月 17, 18 日「口腔顔面痛脳学習キャンプ in 信州 2024」がコロナ禍を経て 2019 年以来 5 年ぶりに開催されました. 2017 年から 2019 年まで合計 3 回開催され, 参加者が「口腔顔面痛に携わる者であれば一度は参加した方が良い」と口を揃えて話す大評判の熱いセミナーです. 筆者は 2019 年以来 2 度目参加のリピーターですが, 何度でも参加したいと改めて感じました. コロナ禍で多くのセミナーがリモートになる中, 対面セミナーでしか味わえない貴重な体験ができた濃厚な 2 日間をレポートします.

室内でも夏の日差しが眩しい集合写真

充実した設備の松本歯科大学解剖実習室

金銅先生の講義と実習

脳に夢中の実習風景

お盆明けの週末, まだまだ残暑厳しいところ北海道から九州まで全国から参加者が松本歯科大学に集結しました. 受付後, 早速白衣に着替え解剖実習室へ向かい, まずはご献体へ黙祷を捧げました. 今回は 4 人グループで脊髄や様々な断面標本となった脳を観察していきました. 金銅 英二先生（松本歯科大学 解剖学講座）の歯切れのいい解説と要点が端的にまとまっているテキスト, そして目の前に実物の脳・・と得られた知識をその場で視覚として記憶できる最高の環境で実習が行われ, 実習室からは活発に質問が飛び交っておりました. また解剖学講座のスタッフの方が観察のアシストをしてくださり, 本キャンプに講師としてご参加いただいた加藤 総夫先生（慈恵会医科大学 痛み脳科学センター）からの解説も加わり, 実習室からはなるほど～, おお～といった感嘆の声が溢れておりました. 痛みと情動と脳をテーマの実習でしたが, 島皮質や帯状回, 扁桃体, 海馬などの位置を実際に確認することができ, これまで患者さんに説明してきた痛みと情動と脳の関係を視覚化して自身の脳にも刻むことができました.

加藤先生による講義

1日目の実習が終わり，学生ホールに移動すると加藤先生による講義「三叉神経脊髄路核－腕傍核－扁桃体経路と痛覚変調性疼痛」が始まりました．痛みは組織の異常がなくとも生じ，この痛みも「リアルな痛み」であり苦しいことに変わりなく，これまでの直接的なシナプスの図式で表現される古典的な痛みのメカニズムでは説明がつかないため，このような痛みの性質を説明できるモデルを考えるために加藤先生の研究が始まったことを知ることができました．脊髄後角および三叉神経脊髄路核からの上行性投射ニューロンの95%以上は不安，恐怖，ストレスなど負の情動を中心とした機能に関与する腕傍核へ投射し，その大部分は生体の有害情報を伝える警告の役割を持つ扁桃体中心核に投射し，興奮性シナプスを形成することがわかりました．さらにマウスの三叉神経では，三叉神経節から直接的に腕傍核へ投射する直接回路が存在することから，三叉神経領域が生体にとって重要な部位であることがわかりました．これら腕傍核や扁桃体が慢性痛を引き起こすメカニズムにどのように関与しているか解明していく必要があるとお話しされました．また，持続的疼痛によって脳に可塑性変化が生じること，幼少期のトラウマなどで脳に可塑性変化が持続すると痛覚変調性疼痛に陥りやすいのではないかなど侵害受容主義から脳中心主義的痛みへの理解のパラダイムシフトについて大変理解が深まりました．

脳キャンプ恒例 Chinese Restaurant Stardustでの夕食

夜になり，初日から濃厚なプログラムに全力で向き合い心地よい疲労感を宿した参加者たちの脳を癒してくれるのは，脳キャンプ恒例の松本歯科大学のレストランで振る舞われる美味しい中華料理とお酒でした．冷えたビールを流し込んだ筆者の後輩は人生で初めてビールが美味しいと感じたと話し，その後も様々な塩尻ワインを楽しんでおりました．懇親会も終盤，一旦皆さん飲み物を持って学生ホールに移動してくださいということで，筆者もワイン片手に部屋に入ると会場は照明が落とされステージにはオルガンやピアノ，音響機材が現れておりました．金銅先生のオルガンと今回スタッフとしてセミナーを支えてくださった松本歯科大学の学生さんの歌のコラボレーションから始まり，金銅先生と加藤先生のJazz Sessionへと続きました．想像もつかないほど多忙を極められている先生方が仕事のみならず，音楽にも真摯に取り組んでおられる姿に，バイタリティ豊かな人間になりたいと憧憬の念を抱きました．

今回は，大学の行事と重なりキャンパスインでの宿泊と二次会は叶わず，ビジネスホテルでの宿泊となりましたが，参加者は塩尻の地で各人各様の時を過ごされたのかと思います．

昼間は学びの場であったホールがJAZZ LOUNGEに様変わり

牛田先生による講義

2日目は牛田 享宏先生（愛知医科大学医学部 疼痛医学講座）による講義「痛みと身体症状化と脳」から始まりました. 先生は早朝から塩尻を走ってこられたそうでその体力に驚かされました. 痛みの慢性化の原因は脳の認知の変化であり, 身体症状として現れるケースを先生の外来症例を交えてご解説いただきました. また,「知らぬが仏」という言葉にあるよう, 恐怖など負の感情を感じるとそれが記憶であっても, 冷汗, 心拍数増加など自律神経症状や震え, 脱力などの運動症状が出現することを先生の登山での体験を例に解説してくださり, 脳が体験すると身体反応が生じることを改めて学びました. さらに痛覚変調性疼痛はハードウェア的ではなくソフトウェア的に痛みを強く経験する病態が生じていると考えられていることなど身体症状化そして痛覚変調性疼痛の理解が深まりました. 最後に「疼痛医療に携わるにあたっての心得 14 箇条」のお話がありました. この心得では, まず治療者の心身と取り巻く環境が満ちている必要性が説かれており, 新鮮ですが大変腑に落ち, 筆者も疼痛診療をする者として倣いたいと思いました.

頭頸部標本に食い入るような視線を向ける参加者たち

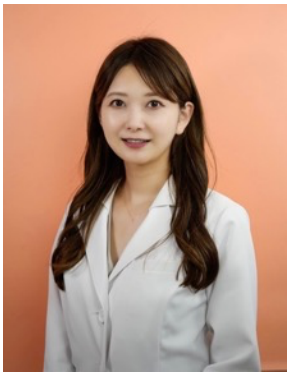
西須先生による講義

講義終了後は, 初日と同様にご献体への黙祷から実習が始まりました.実物の骨模型にカラーガットおよび粘土を使用し, 12 脳神経の走行や筋の起始・停止を確認しました. さらに 2 日間で得られた知識を参加者同士で確認しながら, 様々な断面の頭頸部標本を観察して回りました. このような貴重な体験ができることはそうないため, 時間が過ぎても参加者たちの観察は止まりませんでした. 後ろ髪を引かれる思いで実習室を後にし, 西須 大徳先生（愛知医科大学 疼痛緩和外科痛みセンター）による講義「脳 MRI 画像と病態」が始まりました. 2 日間の総まとめとなる講義で, 脳の解剖の知識を応用し MRI の異常所見からどんな症状が出現するか参加者で予想しました. 講義終了後 2 日間の総まとめとして質疑応答が行われ, 可塑性に基づく脳機能変化が生じると記憶の上書きをするには時間が必要であり, さらに脳の可塑性変化を見出すために, まずはしっかりとした医療面接が必要ではないかと小見山 道先生（日本大学松戸歯学部 クラウンブリッジ補綴学講座）からコメントが寄せられました. 2 日間, 口腔顔面痛のスペシャリストである参加者の皆さんと疼痛医学を牽引しておられる先生の講義や実習を受けることができ, 大変贅沢な時間であったと筆を執る今も感じております. この経験を糧として日々の臨床に深みを与えられるよう精進したいと思いました.

最後になりますが, 2 日間にわたり講義実習の準備からホテルや駅への送迎までホスピタリティに溢れるキャンプの運営をして下さった金銅先生をはじめとする松本歯科大学のスタッフの皆様に心より感謝申し上げます. また開催がありましたらこの好機を逃さずに初めての先生もリピーターとなる先生も是非参加していただきたいと思います.

おまけ　松本歯科大学出身の佐藤先生（右）に映画「神様のカルテ」のロケ地を案内してもらい興奮する安藤先生（左）（共に九州歯科大学）

【河端 和音先生のプロフィール】



【略歴】

2014 年　九州歯科大学歯学部歯学科卒業

2014 年～2015 年　九州歯科大学附属病院歯科麻酔科・ペインクリニック臨床研修医

2015 年～2017 年　昭和大学江東豊洲病院麻酔科助教

2021 年　九州歯科大学大学院歯学研究科歯科侵襲制御学分野修了

2021 年～現在まで　鶴見大学歯学部歯科麻酔学講座助教

【所属学会等】

日本歯科麻酔学会認定医・専門医

日本口腔顔面痛学会認定医・専門医・評議員

日本いたみ財団 いたみ専門医

――――――――――――――――――――――――――――――――

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033　東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960　E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp